

別証の I) について検討する。

証明したいことは n 次元の r 個のベクトルの r -ベクトルに対して ($n \geq r$)、強い意味で一次独立 ($|a_1, \dots, a_r| \neq \mathbf{0}$) のとき、その一部を i 個除いたものの $(r-i)$ -ベクトルも強い意味で独立である ($(r-i)$ -ベクトルも $\mathbf{0}$ でない) こと。(例えば、 $|a_1, \dots, a_{r-1}| \neq \mathbf{0}$)

まず、上記のベクトル a_1, \dots, a_r を並べた (n, r) 行列を以下のように置く。

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \dots & a_{1r} \\ a_{21} & a_{22} & \dots & a_{2r} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{i1} & a_{i2} & \dots & a_{ir} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{n1} & a_{n2} & \dots & a_{nr} \end{pmatrix} \quad (1)$$

仮定より、 r -ベクトルは $\mathbf{0}$ でないから、ある行番号の組み合わせ、 $\nu = (\alpha_1^{(\nu)}, \alpha_2^{(\nu)}, \dots, \alpha_r^{(\nu)})$ に関して、

$$|A^{(\nu)}| = \begin{vmatrix} a_{\alpha_1^{(\nu)}1} & a_{\alpha_1^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_1^{(\nu)}r} \\ a_{\alpha_2^{(\nu)}1} & a_{\alpha_2^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_2^{(\nu)}r} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_r^{(\nu)}1} & a_{\alpha_r^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_r^{(\nu)}r} \end{vmatrix} \neq 0 \quad (2)$$

この左辺は II の定理 5 の展開定理より、例えば最後の列 (a_r の要素) に関して、展開でき、

$$|A^{(\nu)}| = \begin{vmatrix} a_{\alpha_1^{(\nu)}1} & a_{\alpha_1^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_1^{(\nu)}r} \\ a_{\alpha_2^{(\nu)}1} & a_{\alpha_2^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_2^{(\nu)}r} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_r^{(\nu)}1} & a_{\alpha_r^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_r^{(\nu)}r} \end{vmatrix} = a_{\alpha_1^{(\nu)}r} \Delta_{\alpha_1^{(\nu)}r} + a_{\alpha_2^{(\nu)}r} \Delta_{\alpha_2^{(\nu)}r} + \dots + a_{\alpha_r^{(\nu)}r} \Delta_{\alpha_r^{(\nu)}r} \neq 0 \quad (3)$$

ここで、

$$\Delta_{\alpha_i^{(\nu)}r} = \begin{vmatrix} a_{\alpha_1^{(\nu)}1} & a_{\alpha_1^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_1^{(\nu)}(r-1)} \\ a_{\alpha_2^{(\nu)}1} & a_{\alpha_2^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_2^{(\nu)}(r-1)} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_{i-1}^{(\nu)}1} & a_{\alpha_{i-1}^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_{i-1}^{(\nu)}(r-1)} \\ a_{\alpha_{i+1}^{(\nu)}1} & a_{\alpha_{i+1}^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_{i+1}^{(\nu)}(r-1)} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_r^{(\nu)}1} & a_{\alpha_r^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_r^{(\nu)}(r-1)} \end{vmatrix} \quad (4)$$

この $\Delta_{\alpha_i^{(\nu)}r}$ を見てみると、 a_1, \dots, a_{r-1} のある行の組み合わせ $\nu' = (\alpha_1^{(\nu)}, \alpha_2^{(\nu)}, \dots, \alpha_{(i-1)}^{(\nu)}, \alpha_{(i+1)}^{(\nu)}, \dots, \alpha_r^{(\nu)})$ に対して、符号付きで行列式をとっているので、 $\Delta_{\alpha_i^{(\nu)}r}$ は $|a_1, \dots, a_{r-1}|$ の要素になっている。(厳密には正負の符号が異なる可能性があるが、以下の議論には影響しない。)

(3) を考えると、行列式が 0 にならない場合、ある $1 \leq p \leq r$ があって、 $\Delta_{\alpha_p^{(\nu)}r} \neq 0$ 。(そうでないと、 $|A^{(\nu)}| = 0$ になってしまう。)

よって、 $|a_1, \dots, a_{r-1}|$ のある要素は 0 でないので、 $|a_1, \dots, a_{r-1}| \neq \mathbf{0}$

以上により、 a_1, \dots, a_{r-1}, a_r が強い意味で一次独立であれば、 a_1, \dots, a_{r-1} も強い意味で独立であることが示された。ここで a_r を取り除いたが、 a_1, \dots, a_{r-1}, a_r のうち任意の 1 個を除いても同じことが言える。また、これを繰り返し適用することもできるため、 a_1, \dots, a_{r-1}, a_r が強い意味で一次独立であれば、その一部のベクトルも強い意味で一次独立となる。